

内 視 鏡 診 療 科

【目的】

内視鏡を用いて疾患の診断および治療を行う診療部門である。現在、内視鏡診療科では消化器疾患（消化管・肝胆膵）の診療を中心に行っている。近年の「内視鏡医学」の進歩はめざましく、内視鏡検査は、単なる診断手技としてだけでなく、悪性腫瘍の根治的治療をも含めた種々の治療手技としての地位を確立している。本実習によって、消化器内視鏡医学およびそれに基づく内視鏡診療への理解を深め、医師として必要な幅広い知識の習得を目指す。

【実習内容】

- 1) 内視鏡および周辺機器の基本構造・機能・取り扱いの理解。
- 2) 内視鏡検査・治療の前処置、後処置と患者管理の習得。
- 3) 消化器内視鏡診断学の基本と理解の実際の見学。

通常内視鏡、色素内視鏡、拡大内視鏡、画像強調観察、超音波内視鏡、カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡、経鼻内視鏡、鉗子生検、穿刺生検、内圧測定、血流測定、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）、膵管・胆管内視鏡など

- 4) 消化器治療内視鏡学の基本の理解と実際の見学。

内視鏡治療の適応、効果あるいは根治度判定法を学習したうえで、以下の各治療手技について理解を深める。

【消化管：食道・胃十二指腸・小腸・大腸】内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、ポリペクトミー、ホットバイオプシー、止血術、狭窄拡張術、ステント留置術、アルゴンプラズマ凝固療法、異物除去術、薬剤局注、食道胃静脈瘤硬化療法

【膵胆道】乳頭切開術、乳頭拡張術、碎石術、ステント留置術、ドレナージ術

- 5) 消化器内視鏡検査・治療の適応、禁忌、偶発症と対応・処置の理解。

【実習の内容】

第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布するので、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込みのこと。

週間スケジュール

研修希望者の希望を含めて教官と研修計画を立て、担当教官および内視鏡診療科医師の指導のもと、月曜日～金曜日の毎日、内視鏡診療科で実際に行っている内視鏡診療を見学しながら実習を進める。上部消化管内視鏡トレーニングモデル・大腸内視鏡トレーニングモデルを活用し、内視鏡手技の模擬体験をすることで消化器内視鏡への理解を深める。また、内視鏡診療科内カンファレンス、消化器外科・病理との合同カンファレンス、症例検討会、内視鏡医学・消化器病学に関連した各種研究会にも積極的に参加し勉強していただく。

評価

学生の評価は以下のように行う。

評 価 項 目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	40 点
ポートフォリオの内容	20 点
内視鏡機器の扱い（模型など）	20 点
レポート	10 点
教授試問	10 点

担当教官

田中信治（教授）、岡 志郎（診療准教授）、弓削 亮（診療講師）

連絡先

内視鏡診療科医局：082-257-5538、内線 5538（平日日中 8:30～17:00）